北見武道通信

令和６年９月26日　00710号
編集者:佐 藤 寿 春
北見市幸町８丁目４-４(佐藤整骨院内)
NPO法人北見市武道振興協会事務局発行
直通:090-5986-0839
代表:0157-22-2212　Fax:0157-23-0581
ＵＲＬ　http://www.kitamibudokan.org/
satou.tosiharu@navy.plala.or.jp

ニュースレター【事務局情報】第61回高体連オホーツク支部新人弓道選手権大会が開催！

９月11日（水）～13日（金）北見市武道館弓道場を利用し「第61回高体連オホーツク支部新人弓道選手権大会」が開催されました。今回は美幌高校が当番校でした。美幌高校弓道部の皆さんが準備から後片づけまで大変だったと思われます。大会終了時にも事務室前に整列しお礼の言葉を頂きました。〈佐藤〉

今年の中秋の名月は９月17日　！

中秋の名月とは「太陰（月）太陽暦の８月15日の夜に見える月のことを指す」とのことです。2024年の中秋の名月は９月17日、満月は９月18日（水）、同18日午後９時、市武道館閉館時に満月を見て歓喜の声、武道館スタッフも古（いにしえ）より伝わる月（つき）を愛（め）でる心を持っているようです。〈佐藤〉

事務所の花シリーズ
「スイカとホソバハルシャギク」

ホソバハルシャギクとスイカを頂き感謝です。

連載　中国「老子」の思想
五十二章　小知を捨てよ

あらゆる存在には、よって来たる根元がある。その根元が「道」だ。「道」こそ、すべての存在の根元である。根元たる「道」に基づいて、その所産たる存在の本質を理解する。さらにまた、この理解に基づいて、存在の根元たる「道」へと遡（さかのぼ）る。この作業を反復することによって、「道」への認識は無限に深められてゆくのである。「道」への認識を無限に深めてゆくためには、感性を没却しなければならぬ＊。感性的判断に固執する限り、「道」は永遠に認識できない。感性では捉（とら）えられぬ物事を認識することが、「明知」である。感性に存在する小知を捨てて、存在をあるがままに受容することが、「堅固」な認識の立場である。小知を捨てて「道」にのっとり、「明知」に立ち返るなら、無限に自由な境地がひらける。これこそが、「道」の極意に達するということなのだ。〈感性を没却しなければならぬ〉原文は「その兌を塞ぎ、その門を閉す」。「兌」とは穴のことで、「門」と同じく外界からの刺激を伝達する感覚器官を指す。原文：天下有始、以爲天下母。既知其母、復知其子、既知其子、復守其母、没身不殆。塞其兌、閉其門、終身不勤。開其兌、濟其事、終身不救。見小曰明、守柔曰強。用其光、復歸其明、無遺身殃。是謂習常。　五十三章に続く